

平成 30 年度神戸市教育委員会会議臨時会の結果

報告事項 1 市会文教子ども委員会の報告について

報告事項 2 市会本会議の報告について

6月19日の市会文教子ども委員会ならびに6月25日、26日に開催された市会本会議について、報告されました。教育委員から「教育委員会としての責任を痛感しており、真摯に受け止めないといけないと思う。」「教育委員会会議の在り方が問われており、会議内容や議論したことをもっと発信していかななくてはならない。」などといった意見が出ました。

報告事項 3 第三者による詳細調査のための有識者による委員会の報告について

6月24日に開催された第三者による詳細調査のための有識者による委員会の主な会議内容が報告されました。教育委員から、「速やかにご遺族への説明が行えるように事務局として動いてほしい。」などといった意見が出ました。

報告事項 4 中学生自死事案に関する当該校PTA・保護者代表による申し入れについて

6月27日、神戸市教育委員会に対して、当該校PTA・保護者代表による申し入れが行われ、その内容について報告されました。申入れ事項としては、①事件の再調査に当たって、公正な調査が行われること②事件の調査の経緯、結果、在校生対象のアンケート結果について、現在の当該校在校生の保護者ならびに事件当時の3年生、2年生の卒業生の保護者対象の保護者会における説明③一連の不適切な対応の再発防止策の報告④教育委員会が対応すべき事案の適正な対処、の4点です。教育委員から「保護者会でしっかりと説明できていないことで、あらぬ噂が飛び交ってしまった。つらい思いをさせて申し訳ない。誠実で丁寧な対応をお願いしたい。」「相手の立場に立った動きをしてほしい。」などといった意見が出されました。

協議事項 5 不祥事の根絶に向けた組織風土の改革について

垂水区中学生自死事案において、事件発生直後の生徒からの聞き取り記録を存在しないとする不適切な対応を行っていたこと、また、その後、同記録の存在が判明して以降、調査が消極的で真剣に行われなかったことなどの一連の背景や要因を分析し、早急に再発防止策を講じることに加えて、繰り返される教職員による不祥事についても要因分析

を行い、不祥事の根絶に向けた組織体制と組織風土の改革にどのように取り組んでいくか議論しました。

組織風土改革を行うにあたっては、外部有識者の意見をいただいて、検討することを考えており、外部有識者による検討の内容としては、(1) 組織として意思決定をし事務をすすめていくための「あるべき組織体制」について検討する、その後、(2) 教職員による不祥事の背景や要因の分析を行い、コンプライアンス意識の向上と組織風土改革について検討することとしています。また、検討の内容について、教育委員から「組織として不祥事が起こらないチェック体制をつくり、それをPDCAサイクルをまわしてどのように機能を果たしていくかについての議論も必要である。」などといった意見が出されました。